

蔵王山の噴火に伴う農畜産物への降灰対策について

白石市建設産業部農林課

農家の皆様へ

蔵王山が噴火した場合、気象条件（風向き等）により、降灰等による農作物への被害が予測されます。農作物等の被害を最小限に止めるため、下記の事項に十分留意願います。

- 1 降灰時の屋外での農作業はなるべく控えてください。（特に呼吸器系の疾病が有る方。）
- 2 やむをえずに降灰下で農作業を行う場合は、灰が目や口に入らない対策（ゴーグル、防じんマスク等の着用）、長袖、長ズボン、帽子、手袋、タオル等を着用してください。

■ 共通事項

- 1 農作物や施設（ビニールハウス等）に火山灰が積もった場合は、できるだけ早めに払い落とし、散水等により速やかな除去に努めてください。
- 2 火山灰は、葉やけなどの障害を起こす可能性があります。
降灰量の比較的少ないほ場では、火山灰のpHや成分の分析を行い、強酸性の場合は作付け前に適量のアルカリ資材（石灰等）を土壤に施用し中和してください。
※pH：酸性、アルカリ性濃度（高いほどアルカリ性が強い。）
- 3 降灰は、乾くと固まりやすくなることから、土壤への降灰の堆積量が多いところでは除灰してください。

■ 水稲、麦、大豆、そば

（共通）

- 1 株に灰が付着したまま収穫等の機械作業を行うと、機械の吸気システムの故障や、刈取り刃の損傷等が生じやすくなるので、機械の事前整備に加え、作業中にも灰の除去などが想定される所のこまめな掃除に努めてください。
- 2 水稲、麦、大豆については、農作物共済の対象となっていますので、詳しくは共済組合にご相談ください。

（水稲）

- 1 pHが低い火山灰の場合、硫酸を含むことが考えられ、特に排水不良田では移植前に耕耘することで、湛水後、生育不良になることが考えられますので、荒起こし前までには、火山灰のpHを確認してください。
- 2 田植後の降灰については、湛水する水の入れ替えの間隔を短くして対応してください。

■露地野菜

- 1 収穫期の葉茎菜類は、被覆資材を降灰前にできるだけ被覆してください。収穫期のもものは収穫を急いでください。
- 2 作物の除灰は、振動・払い落とし（ブロワー等使用）、散水器具での洗い流し等降灰後速やかに行ってください。
なお、散水にあたっては、葉等に火山灰が残らないよう、十分な水量を用いてください。
- 3 火山灰の除去後は、必要に応じて苦土石灰及び有機物等の施用により土壌改良を行ってください。
- 4 育苗期の降灰に際しては、防塵塩化ビニール又はポリオレフィン系フィルムを使用してトンネルによる被覆保護を行ってください。（但し、被覆を行った場合はトンネル内の昇温抑制、かん水等の管理面に留意してください）。

■花き

- 1 花き育苗床は、寒冷紗、ビニール等被覆資材で被覆ができるよう準備し、降灰に備えてください。
- 2 火山灰が茎葉等に付着すると商品性を大きく損なうため、振動やブロワー等を使用し、速やかに払い落とししてください。
- 3 火山灰の性状によっては、除去後もフィルムの傷等により透光率が低下しやすいため、ハウス内照度に留意してください。（張り替えが必要な場合も生じます。）
- 4 火山灰が茎葉に長時間付着すると生育不良をきたすおそれがあることに加え、降雨により、火山灰が固まるため、散水等により速やかに除去してください。
なお、降灰の長期化や間隔が短い場合は、防塵塩化ビニール又はポリオレフィン系フィルムによる雨よけ（降灰対策）施設を準備してください。
- 5 降灰や除去作業によって傷が生じた場合には必要に応じて適応する農薬を散布してください。
- 6 収穫後は選別をしっかりと行い、灰の付着や傷み等、品質の低下したものは区別してください。

■果樹

- 1 樹上や施設に火山灰が積もると、日影となり生育不良や果実品質の低下が起こるおそれがあるため、樹体や施設ビニールに積もった火山灰をブロワー等により払い落としや散水により速やかに除去してください。
- 2 樹上に火山灰がある場合に収穫すると、果皮が傷つきやすいので、散水除灰後に収穫を行い、取り扱いをていねいにしてください。
- 3 収穫期が近い果実には、収穫前の使用期間等を考慮した殺菌剤の使用も有効です。
- 4 落葉が著しい場合は、白塗剤の塗布など日焼け防止に努めるとともに、病害虫防除を徹底し、液肥の葉面散布を行うなど樹勢の回復に努めてください。
- 5 樹勢の低下による病害虫の発生増加や薬害発生に留意し、適正な防除に努めてください。

■施設園芸（野菜・花き共通）

《火山灰の除去対策》

- 1 火山灰の堆積が多い場合は、ブロワー（ミスト機等）を利用し、風圧で積灰量を減らした後に、動力噴霧器による水を使った高圧洗浄を行ってください。
- 2 堆積の少ない場合は、直ちに高圧洗浄を行ってください。
- 3 洗浄後も火山灰が被覆資材表面に残り、光線透過量の低下により作物の生育に悪影響を及ぼす場合には資材を傷つけないように注意しながら、寒冷紗など柔らかな素材で払い落としてください。（硬質プラスチック板の場合は、散水のみで洗浄可能）
- 4 除灰には、高圧の散水が最も効果的ですが、作物の大きさ等に応じた散水器具等を使用することに注意してください。

《降灰時のハウス内管理》

- 1 天井及び谷部に堆積した火山灰が、直接作物に付着しないようブロワー等で除去した後、谷部の開閉を行ってください。
- 2 堆積火山灰の除去ができない場合は、ハウスサイド部の開閉で温度調節してください。
- 3 谷部開閉を行う場合には、谷開口部側の内張りのビニールがある場合には開かず、火山灰のハウス内への侵入による作物への付着を防止してください。
- 4 野菜類では葉等への微量の付着での影響は少ないですが、多量の付着がある場合には、動力噴霧器等により洗い流してください。
- 5 施設内の換気を行う場合は、火山灰の入り込みに注意して行ってください。
また、火山灰が換気扇や暖房機等の運転の妨げとならないよう施設周辺機器の点検を励行してください。
- 6 高所での作業の際には転落事故が起きないように落下防止の措置を十分注意してください。

■畜産（飼料作物）

- 1 火山灰を多く含む飼料の給与は下痢等を起こすことがあるため、降雨や風による除去状況を踏まえて、極力、火山灰が混入しないよう飼料作物の収穫及び稲わらの収集を行うとともに、付着していないものと混合して給与することなどにより飼料中の火山灰の低減に努めてください。
- 2 サイレージ調製時に必要に応じ添加剤を使用するなど品質の確保に努めてください。
- 3 降灰後の状況に応じて掃除刈りや施肥等を行い、来年度の生育の確保に努めてください。
- 4 乾草、サイレージは、貯蔵施設の密閉やシートをかぶせるなど、火山灰がはいらないよう工夫してください。
- 5 家畜への給与については、少量の付着であれば、家畜の健康に問題はありません。

※参考

- ・褐毛和種成雌妊娠牛に必要な乾物量の5%（430 g／体重500kg）の降灰と酸性水（pH2.8～3.8）を9カ月間給与した。第1胃内容液について異常は見られず、第1胃の活動が順調であることが示唆された。血液検査についても特に異常値は認められなかった。また、試験期間を通じ臨床的にも健康で、分娩から再受胎ならびに子牛の発育も順調であった。（熊本県草地畜産研究所：H2）

- ・雲仙普賢岳の降灰をサイレージと混合して(サイレージ 1kg 当たり降灰 40 g 及び 20 g)、搾乳牛へ給与した。粗飼料採食量は灰が付着した方が低い傾向にあったものの、乳量・乳成分に差はみられなかった。(長崎県畜産試験場:H3)

6 生育中のイタリアンライグラスについて

- ① 火山灰に埋もれていないイタリアンライグラスは、病害虫に気をつけしばらく生育を見守ってください。
- ② 火山灰に埋もれてしまったイタリアンライグラスは、枯死する可能性が高いので、火山灰を除いて生育状況を確認してください。大部分が枯死していれば、収穫をあきらめて5月からの夏作播種の準備を検討してください。